

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日号 (No. 63・豪雨でざんしょ号)

2011
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

レンガが
きれいだね



勝手にレッドデータ of 志木 (49)

大小合併門樋 (だいしょうがっぺいもんぴ)

明治31年(1898)2月に竣工した煉瓦造の門樋で、総合福祉センター裏の新河岸川除堤(上宗岡5丁目)にあります。近接していた大小2つを統合したため、大小合併という名称になりました。

この門樋は、北美塚樋(きたみいりひ:中宗岡1丁目)や竈嵐門樋(かごしまもんぴ:下宗岡4丁目)とともに、土木学会の「日本の近代土木遺産」に選ばれていますが、現在事業中の「一般国道254号和光富士見バイパス」の計画敷地にかかっているため、文化財保護などによる早急な保全策が望まれます。

(伊藤智明)

身近な川の一斉調査 2011

新河岸川水系身近な川の一斉調査 身近な水環境の全国一斉調査

- ◆2011年6月5日（日）9：00～12：30
- ◆協力参加：志木市立志木中学校科学部
- ◆参加者：12名

毎年1回、6月第1日曜日に実施している水質調査で、当会は1996年から開始し、16回目になりました。昨年までの宗岡中学校科学部に替わり、志木中学校科学部と共に、市内8カ所の水を採取し、志木中理科教室で測定しました。結果は概ね例年と似た傾向でした。

- 主な測定項目は以下の通りですが、この他に**気温**、**硝酸性窒素**、**アンモニア性窒素**も測定しています。
- **pH（水素イオン濃度）**：7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。
- **EC（電気伝導度）**：水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多いが、必ずしも不純物＝汚れというわけではなく、海水や温泉水なども高い。

- **COD（化学的酸素消費量）**：酸化剤で有機物を酸化した時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物が多い。**BOD（生物化学的酸素消費量）**は微生物により分解されやすい有機物量を表す。
- **透視度**：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。数人で測定し平均値を求める。

（天田 眞）



■ 2011年の主な測定結果と過去5年間（2007～2011）の平均値

測定項目		水温（℃）		pH		EC（μS/cm）		COD（mgO/L）		透視度（cm）	
		11年	平均	11年	平均	11年	平均	11年	平均	11年	平均
柳瀬川	志木大橋	22.5	22.8	7.0	7.2	300	348.8	8	8.8	108.0	115.5
	栄橋	22.0		7.0		300		8		120.0	
新河岸川（上流）	袋橋	19.5	19.8	6.5	6.9	280	287.5	2	3.6	48.0	33.5
	いろは橋	19.0		6.5		280		4		42.0	
新河岸川（下流）	宮戸橋	20.0	20.6	7.0	7.3	300	330.0	6	5.2	49.0	50.0
荒川	秋が瀬取水堰	19.0	20.8	7.0	7.4	184	188.0	4	2.4	42.0	50.1
こもれびのこみち湧水		16.5	16.6	6.0	6.4	200	226.0	2	1.2	120.0	119.0
赤野毛排水路（宗岡二中前）		20.0	21.2	7.5	7.7	350	364.0	6	5.6	55.5	46.7

※ 各測定項目の右欄に過去5年間の平均値を記入した。柳瀬川・新河岸川の合流点より上流の各2カ所は合わせた平均値とした。

■ 過去5年間の結果から見る水質の特徴

柳瀬川 【志木大橋・栄橋】	下水処理場の放流水が6割以上で、透視度は高いがCOD、ECが高く、見かけほど水質は良くない。下水処理水のため水温が高い。河床は砂礫。流量は多く、流速は早い。
新河岸川（柳瀬川合流前） 【袋橋・いろは橋】	透視度は最低だが、COD、ECは柳瀬川より低く、見かけほど水質は悪くない。河床は砂泥。柳瀬川に比べ流量は少なく、流速は遅い。潮位変化の影響を受ける観潮河川。
新河岸川【宮戸橋】	概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の間の数値を示す。
荒川 【秋が瀬取水堰上流側】	ECは最低、CODも非常に低く水質は良いが、透視度はそれほど高くない。わずかにアルカリ性。東京都・埼玉県の上水道原水で利根川から導水された水が大半を占める。
こもれびのこみち湧水	透視度は高く、CODは最低で非常に水質が良い。ECがそれほど低くないこと、水温が低い（年間一定）こと、わずかに酸性気味なことは湧水の特徴。
赤野毛排水路	ECが最高でCODも高く水質は悪い。平均では分からないが年により数値のばらつきが多い。雨水、農業排水、雑排水等、様々な水が混ざっていると思われる。

※ 埼玉県によるBOD（75%値）測定の過去5年間（2005～2009）平均は、栄橋2.30、いろは橋2.58となっている。

5/30
(月)

6/1
(水)

プールのヤゴ救出作戦

5月30日(月) 志木小学校

志木小学校でのヤゴ救出はあいにくの天気で、プールでの救出活動は中止になりました。

一年生約100名に室内で、ヤゴからトンボになるまでの紙芝居や、ヤゴの衣装を着ての寸劇をして、ヤゴの生態や飼い方の説明をしました。今年の志木小学校のプールのヤゴは、数が非常に少なく、子供たちがプールに入ってもあまり成果が期待できないものでした。

6月1日(水) 志木第二小学校

志木第二小学校は幸い天気になり、二年生約90名で実施しました。

体育館で紙芝居やヤゴの飼い方の説明を受けた後、水を抜いて底が半分ほど出ているプールでヤゴ捕りをしました。最初は手でつかむのをためらっていたこどもも、しばらくすると自分の手でつかんで容器に入れていきます。生き物にじかに触れる機会が少なくなったこどもたちには貴重な体験です。ヤゴも数多く捕れこどもたちは大喜びでした。各自が持ち帰ったヤゴは6月中旬ごろにはトンボになりますが、何割ぐらいがトンボになれるのでしょうか。

プールのヤゴはほとんどがアキアカネですが、そのアキアカネが激減して問題になっています。理由は主に二つのことが考えられています。一つは田んぼの中干しです。最近の田んぼは田植えの



(志木小学校での授業の様子 写真：毛将将範)

後で、中干しといって一度水を抜いて乾燥化させます。これによってイネの根がしっかりと張り、生産性が向上します。この中干しの期間がイネの種類により時期や長さが、ヤゴの生育期と重なりヤゴが育たなくさせているのです。二つ目は農薬の使用方法です。以前はイネがある程度成長してから(ヤゴがトンボに孵った後)に使用していましたが、最近田植えの段階で苗に農薬を埋め込まれることが行われています。このためヤゴが育つことが出来ないというものです。

一昔前には当たり前に見られたアカトンボがだんだん見られなくなるのはさびしい気がします。

(山崎光久)



(志木第二小学校でのヤゴ救出作戦 写真：山崎光久)

7/24
(日)

こどもとおとなの自然塾 (2)

お魚と遊ぼう

今年の「こどもとおとなの自然塾」第二回として7月24日「お魚と遊ぼう」が行われました。

“柳瀬川にはどんな魚や水生生物がいるのか？”川にジャブジャブ入って調べてみます。志木中学校前の土手に集まった子供たち（19家族24名）はライフジャケットを付けて、いっしょにおとなも川に入り、まず川底の石ころを手に取り、石に付いている虫を観察しました。これらは成長してとんぼとなりユスリカとなる幼虫です。つぎにみんな瀬わたり（川の対岸に渡る）をしたあと対岸の草の茂みで魚を網で捕らえます。方法は各自、網を下手に置き足で魚を追いかみます。柳瀬川では現在多くの種類の魚を見ることができドジョウ、フナ、ハゼの仲間、エビなどを各自捕まえていました。最後は、どんな魚が見つかったか水槽に入れ観察し、エコシティ志木の人から解説をしてもらいました。

この企画は、新河岸川流域川づくり連絡会の10か所以上でリレーして実施されたイベントの一つです。ライフジャケットは新河岸川水系水環境連絡会からお借りしました。また今後、「自然塾」では秋の虫や渡り鳥の観察、どんぐり工作もありますので、是非ご参加ください。（加藤健二）



(写真：山崎光久)

9月4に第一回の見学会 「水塚の文化研究会」が発足しました

エコシティ志木が2年間にわたりおこなってきました志木および周辺地域での水塚の調査・記録活動が2011年2月に終了し、その成果が『水塚の文化誌』という1冊の書物としてまとまりました。記録は後世に残る形にしておかないといつか消え去ってしまいます。その意味で、調査に参加したものの全員が大変うれしく思っています。

しかし、偶然ではありますが、この記録の報告会の5日後に「東日本東日本大地震・原発事故」が発生し、現在に至るまで復興の見通しが見えない状況です。時代やその規模はまったく違っても、100年前の大水害から現在の生活のあり方を考えてきた水塚調査参加者の多くも、こうした状況に遭遇して、あらためて、地域や社会のなかで、自分達に何ができるかを深く考えさせられたのではないのでしょうか。

以前から声はあったのですが、こうしたこともあって、この水塚調査に参加したものや新しいメンバーも含めて、「水塚」がひとつの象徴となっ

ている「自然と生活を結ぶ文化」の意義や重要性、未来への展望を考えるために、調査や提案活動を継続していきませんかという呼びかけが行われました。

水塚調査に参加した筑井（朝霞市）、一ノ倉（志木市）、伊藤（富士見市）の3名が呼びかけ人となり、5月22日に最初の懇談会を開催し、新しい活動を行うことを決めました。また、その前になりますが、5月15日に開かれたNPO法人エコシティ志木2011年度総会で、「水塚調査員交流事業」ということで引き続き、事業を行っていただくことが決まっています。

9月4日には、千葉県野田市の関宿城博物館と周辺地域を対象に最初の見学会をおこないます。今後も、埼玉県あるいは近県の主として水と生活に関わる文化施設や自然環境の見学を行いたいと考えています。会費などもなく、どなたでも参加できますので、お気軽にお出でください。

（筑井信明）

柳瀬川で子どもたちの魚捕りを手伝いました

6月末から7月末に、柳瀬川で子どもたちを対象にした魚捕り企画を5回実施しましたが、この内、別に報告がある「お魚と遊ぼう」以外について報告します。いずれも各団体からの依頼で、当会がスタッフとしてサポートしました。魚捕りは、岸辺の草の中にいる魚やエビを足で追い出し網で捕まえる「がさがさ」と呼ばれる方法です。

●6月28日(火) 宗岡第三小学校5年生54名の総合学習。今年で6年目で、年に3回、学校から1時間近くかけて歩いてやってきます。魚捕り調査のほか、植物・鳥等の観察も行いました。

●7月2日(土) 板橋区立高島第六小学校と大東文化大学環境創造学科が連携している「土曜寺子屋」の企画で、児童・保護者・学生等50名近くが魚捕り・水生生物調査・川渡りを体験。2年続きで雨天中止となり、やっと実施できました。

●7月3日(日) 放課後子ども教室「リンクス」の子どもたち・保護者・ボランティア等40数名。リンクスでは宗岡小・志木二小・志木四小で放課



竹の子エコクラブの水生生物調査(7/30)

後や土曜日にボランティアの指導でスポーツ遊び・工作・自然散歩などを楽しんでいます。

●7月30日(土) 三芳町竹間沢地区で活動している「竹の子エコクラブ」で、サポーターと共に30名ほど。2002年から始め、もう10回目になりました。前日の雨で少し増水していたので、例年の川渡りは中止となりましたが、魚捕りと水生生物調査を行いました。(天田 眞)

大型外来植物駆除作戦

初夏から初秋にかけての柳瀬川と新河岸川の河川敷は外来植物のアレチウリ、オオブタクサ、セイバンモロコシ、イヌキクイモ等に覆われています。それらの中で私達が駆除の対象としている大型外来植物は、特定外来生物「アレチウリ」と要注意外来生物「オオブタクサ」の二種類です。

これらの外来植物は繁殖力が強く、オオブタクサは成長すると3～4メートルにもなり、アレチウリは広く一面を覆い、これらの植物の下は日が当たらないため、他の植物は育たなくなります。今年的大型外来植物駆除作戦は昨年と同様に三つの柱で行っています。

一つ目は柳瀬川の志木大橋から高橋の先までを、6月から9月までの第三日曜日の午後3時から6時まで行うものです。

二つ目は志木中学校の生徒さん達によるボランティア活動です。夏休み前の7月15日(金)午後2時から3時半の間に、志木中学校の生徒さん約130名と校長先生をはじめ先生方の参加を得て、柳瀬川鉄橋と高橋の間でアレチウリとオオ

ブタクサの抜き取りを行いました。この活動は1998年に始めて今年で14回目を迎えました。

三つ目は昨年志木市市制施行40周年の記念事業として実施した新河岸川・外来植物駆除作戦「水辺のおたすけ隊」をエコシティ志木と(財)埼玉県生態系保護協会志木支部とで行うものです。

8月7日(日)県立志木高校のPTAの方々約16名を中心に、こども3名を含む一般の方々12名、社会福祉協議会のボランティア体験の中高生2名、それにスタッフ10名の合計40名で、いろは橋の右岸・左岸の上流側を二班に分けて実施しました。新河岸川の右岸側は「アレチウリ」が、左岸側は「オオブタクサ」が多く繁茂し、オオブタクサの大きなものは3メートルを越え、太さも直径5センチ以上あり、鋸で切らなければ抜くのが困難なものもありました。

7月15日の志木中学校と8月7日の「水辺のおたすけ隊」は、埼玉県NPO基金の助成を受けて実施しました。

(山崎光久)

三代の堤防



新河岸川沿いに現存する、江戸・昭和・平成の「三代の堤防」(google マップより)

伊藤 智明

志木市内には、江戸・昭和・平成とそれぞれの時代に築かれた堤防が残っています。志木市役所のすぐ近く、いろは橋下流の新河岸川左岸に、ちょうど三時代の堤防が並行している場所があり、見比べることができます。私たちはその場所の3本の堤防を「三代の堤防」と呼んでいます。

新しい堤防が出来ると古い堤防は壊してしまう場合がほとんどのため、こうした三つの時代の堤防が残っている例は本当に希です。またこれらは、それぞれの堤防が築かれた時代の治水の考え方をよく反映している点でも貴重な存在です。

志木市内に残る樋門とともに、「三代の堤防」も文化財としての保護を切望します。

(1) 江戸時代の堤防

～村全体を堤防で囲む～

宗岡には江戸時代に造られた「惣囲堤」と呼ぶ輪中堤があります。いろは橋の下流では、新河岸川左岸の3本の堤防の一番集落寄りにあるゆるやかにカーブした散策路がそれです。

この時代、川は氾濫することが前提でした。荒川が氾濫すると田んぼに「エグミ」と呼ばれる肥えた土が入るため美味しいお米が出来ました。また、新河岸川は当時の主要物流機能である舟運が盛んであったため、舟のスムーズな運航に必要な水量を確保できる「九十九曲がり」と呼ばれる程の川の蛇行を放置していたので氾濫しやすくなっ

ていました。そして百万都市・江戸を守るため中下流域の農村地帯は広大な遊水地としての機能をもっていました。

つまり、江戸時代の惣囲堤は、川は自由に流れさせ、その洪水流から村を守るために築かれた堤防であったといえます。

(2) 昭和時代の堤防

～川に沿った連続堤防～

明治になると、川の氾濫原である低地にも次第に資産や人が集まるようになり、一時的にせよ水に浸かるということは許されなくなってきていました。特に明治43年(1910)に起きた関東一円を襲った大水害がきっかけとなり、治水対策の大転換が図られていきます。それまでの蛇行していた川を直線化して洪水流をいち早く海まで流す工事が進むようになったのです。そのため、大正から昭和にかけて、志木市内でも川を真っ直ぐにする工事と、真っ直ぐになった川に沿って連続した堤防が造られるようになり、昭和5年(1930)に新河岸川の堤防が完成しました。

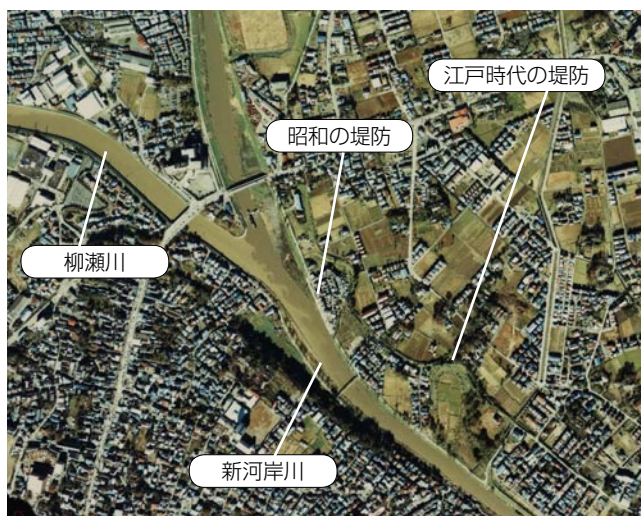
いろは橋の下流左岸の流れに沿ってある、桜並木と遊歩道がその名残です。新しい堤防が造られると古い堤防は壊されることがほとんどですが、志木の新河岸川堤防は桜並木の名所であったため



明治 39 (1906) 年 (大日本帝国陸地測量部測量図より)
江戸時代に築かれた堤防と、当時の「新河岸川」と「柳瀬川」が蛇行しているのがよく分かります。



昭和 22 (1947) 年 11 月 (国土地理院ホームページより)
江戸時代の堤防・昭和 5 年完成の堤防、直線化された川と、柳瀬川の蛇行した旧河川がよくわかります。



昭和 54 (1979) 年 11 月 (国土地理院ホームページより)
都市化が進み、江戸時代の堤防と昭和の堤防の間や旧河川の跡にも宅地が造成されてきています。
雨で増水したのか、昭和の堤防ギリギリまで水がきています。



昭和の堤防と平成の堤防

市民から保存要望があり、古い堤防も残されることになったのです。

こうした河川工事は、明治 29 年 (1896) に治水対策を目的に制定された河川法 (旧河川法) に基づいておこなわれ、当時森林法・砂防法と合わせ「治水三法」と呼ばれました。

(3) 平成時代の堤防

～広い河川域と高い堤防～

いろは橋下流の現在の新河岸川堤防は、江戸時代の堤防と昭和時代の堤防の間にあります。

高度成長時代の宅地造成やアスファルト道路の増加、緑地や農地の減少などにより、流域の保水・遊水機能が低下し、降った雨が大量にそして急激に川へ流出するようになり、昭和時代の堤防では耐えられなくなってきました。そこで降った雨や洪水流を流域全体で抑制しようという総合治水対策がとられるようになり、流域に遊水施設を造ったり、流量を増やすために河川敷を広くとり、堤防をより高くするようになりました。

それが、志木市周辺で平成 10 年 (1998) 頃に完成した現在の新河岸川堤防です。河川敷を広げる際には、当時、昭和時代の堤防のすぐそばにあった民家などは移転しています。

なお、平成 9 年 (1997) に改正された河川法では、従来の治水 (旧河川法 <1896>) や利水 (新河川法 <1964>) に環境保全・地域住民の意見反映の観点も加わり、画一的でない地域・時代に合わせた河川管理に変わってきています。

【参考文献】

志木まると博物館 河童のつづら編『水塚の文化誌 —志木市・宗岡荒川下流域の水とくらす知恵』
2011 エコシティ志木

金子秀樹の 農業日記 < 11 >

今年も天候不順が続いています。

暑くなれば体温と同じ温度になりますし、雨が降れば7月末の新潟・福島豪雨のように家・交通機関・田畑に大きな被害を与えるほどに雨が降ります。

宗岡の堤外でも、5月末の台風2号の雨で一部の田んぼが水没しました。

水没した田んぼには排水路より鯉が入り、田んぼの中を勢い良く泳いでいまいました。大きいもので体長30cm以上の鯉もいたと思われます。

我家の田んぼにも鯉が6匹ほど入りましたが、苗も定着していましたし泥もかぶりませんでしたので、苗にはあまり影響ありませんでしたが、この時私は、10数年前の事を思い出しました。

その年は、お盆過ぎに台風が襲来し、堤外の田んぼは全て水没。刈入れ前の稲をなぎ倒され、その年の堤外の稲の収穫は出来ませんでした。また、倒れた稲の処理も大変でした。

今の所、今年の稲の生育は順調で、刈入れは例年通り8月末～9月初めの予定です。

ただ、ここにきて心配事がひとつ増えました。それは、放射能です。

問題ないと思いますが、この地区の稲の放射能検査は8月末に予定されています。放射能の広がりがあるところにも影響してくると思いますでした。

最近、天候不順が通年化していますが、今年は、地震・津波・原発事故が加わりました。

原発事故後の色々なごたごたを見ていると、天候不順に加え、この先この国はどうなっていくのか心配になってきます。



8月初めの田んぼ



増水した排水路（5月末）



通常の排水路



全て上げられた荒川の水門（5月末）



田んぼに残された鯉



水没した田んぼと鯉。中央に鯉の背びれが見えます

《鳥類》

ホトトギス (声 1) → 6月3日 (金) 夜、西原第三公園、線路際の方から [天田いづみ]
アマサギ (若鳥を含めて 7) → 6月19日 (日) 水谷田んぼ (富士見市) [柳瀬川ウオッチング]
ハシボンガラス (成長 2+ 若 2) → 6月19日 (日) 水谷田んぼ [柳瀬川ウオッチング]
カルガモ (♀ 1+ ヒナ 7) → 6月19日 (日) 水谷田んぼの水路 [柳瀬川ウオッチング]

《は虫類》

スッポン (1) → 6月19日 (日) 柳瀬川・栄橋上流 [柳瀬川ウオッチング]
ニホントカゲ (1) → 8月初め 孵化したばかりの幼体多数。西原ふれあい第三公園 [天田眞]

《昆虫》

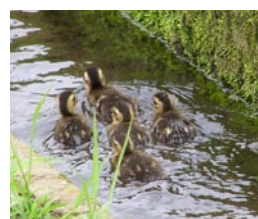
カラスアゲハ → 7月～8月 毎日飛び回り、コクサギに多数の幼虫。西原ふれあい第三公園 [天田眞]
アカボシゴマダラ (要注意外来生物) → 8月 エノキの実生幼樹に多数の幼虫。西原ふれあい第三公園 [天田眞]

《貝類》

シジミらしき貝 (1) → 6月19日 (日)
水谷田んぼ [ふじみ環境クラブ]



ハシボンガラス (6/19) [毛利将範]



カルガモ幼鳥 (6/19) [毛利]



ニホントカゲ [天田眞]



カラスアゲハ [天田眞]



アカボシゴマダラ [天田眞]

環境 ひとくちメモ (21)

伊藤 智明

「異常水質事故」

工場・事業場・工事現場の排水、農薬、車両や船舶の事故、不法投棄、燃料配管の破損などによる漏洩や給油中の操作ミスなどにより、化学物質や油類^{*}の流出、着色水、濁水などの異常水質事故が起きます。これにより、魚の浮上死など川の生き物への被害が見られます。

魚の浮上死などには、水中の酸素欠乏状態 (降雨による川底の泥の巻き上げ、急激な温度上昇等により水中に溶存する酸素の減少、農村部での水量が減少する非かんがい期などによる河川流量の極端な減少・瀬切れ) が原因となることもあります。

また、異常水質事故の原因は多様化していて、水濁法上の特定事業場等以外からの流出・

漏洩事故の発生や、水濁法上の有害物質以外の化学物質による水質事故の発生などがあります。未然防止の課題として、住民からの通報等を契機とするため対応に遅れ、汚染が拡散した後の原因究明は困難、有効な再発防止措置が困難などがあります。

もし、異常水質事故を発見したら、市役所や県環境事務所へ通報してください。

年度	件数	内 訳			
		魚の浮上死等	油類の流出	着色水・濁水の流下	その他の異常
平13	266	67	139	35	25
平14	233	60	112	47	14
平15	200	60	88	37	15
平16	228	109	80	29	10
平17	249	80	102	49	18
平18	266	40	155	49	22
平19	268	41	135	65	27
平20	280	49	126	76	29
平21	261	47	142	47	25
平22	237	57	110	47	23

表：埼玉県 環境部 水環境課ホームページ
「異常水質事故件数の推移」より作成

詳細は以下のホームページをご覧ください。

埼玉県 環境部 水環境課 <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f04/>

^{*}灯油・重油・軽油・潤滑油・ガソリン・廃油 等

☆会員状況

2011 年度更新済み会員 (8/22 現在)

個人正会員 40

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域 NPO 連絡会

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

当会公式ホームページ 取扱説明書



①アクセスする

「エコシティ志木」で検索します。
または、直接アドレスを打ち込みます。
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

エコシティ志木通信や配布物のバックナンバーをダウンロードしたり、行事案内を調べることができます。



②行事を調べる

詳しい行事案内を調べることができます。

「行事カレンダー」の青くなっている日付をクリックすると、その日の行事が表示されます。
「今日の行事は何時から？」と思ったらチェックしてみてください。



③「河童のつづら」でお宝を調べる

「河童のつづら」で検索するか、ホームページからクリックします。
または、直接アドレスを打ち込みます。
<http://kappa-no.net/>

志木の「お宝」に関するデータベースが充実しています。

主に植物の汁を吸うカメムシ目（半翅目）の中心のカメムシの仲間（カメムシ科・ヘリカメムシ科等）は、米や野菜の害虫だったり、刺激するといやな臭いを出したりで嫌われがちな虫ですが、身近に多く、きれいな模様があったり、観察して楽しい虫です。

葉に数十個の卵を縦横整然と産卵し、卵の上の蓋を開ける様にして孵化します。【1】

こげ茶色の背中に大きな黄色のハート型模様があるエサキモンキツノカメムシは、産んだ卵塊の上にかぶさる様にして、2 齢になるまで卵と幼虫を守り続けます。【2】

カメムシは蛹の時期がない不完全変態のため、幼虫も成虫と同じような形ですが、色や模様は大きく変化します。幼虫も齢数で模様

が変わったり、色違いがあったりします。身近で普通にみられるアオクサカメムシの成虫は緑一色の目立たない虫ですが、幼虫は様々なおしゃれな模様がついています。【3、4】

日本のカメムシで最も美しいといわれるのがアカスジキンカメムシで、幼虫は黒白模様ですが、成虫は緑地に橙色の帯模様で金属光沢があります。（幼虫も成虫も色違いの個体があります）【7、8】

カメムシの仲間の口は針状になっていて、普段は胸の下に折り畳まれています。殆どが植物食ですが、クチブトカメムシ類はケムシやアオムシの汁も吸います。【9】

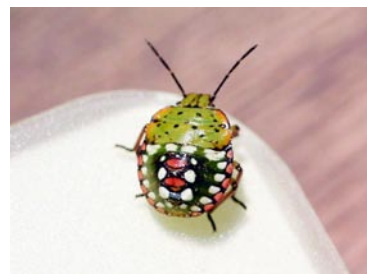
また、近縁のサシガメ科は完全な動物食で、様々な虫を捕え汁を吸いますが、捕えようとすると人も刺されることがあります。



【1】カメムシが孵化した直後、右上は卵の殻で蓋が開いている



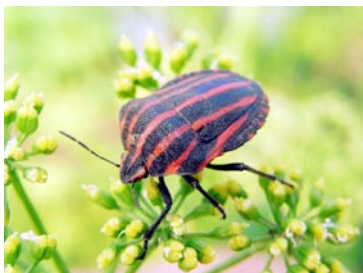
【2】卵塊を守っているエサキモンキツノカメムシ



【3】アオクサカメムシの幼虫（若齢）



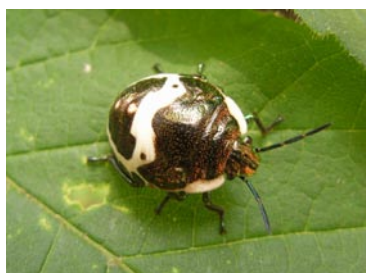
【4】アオクサカメムシの幼虫（5 齢）



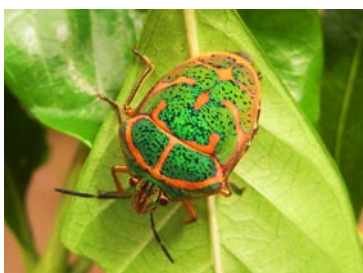
【5】ニンジン等のセリ科植物に付くアカスジカメムシ



【6】ごく普通に見られるブチヒゲカメムシ



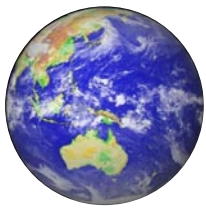
【7】アカスジキンカメムシの幼虫、黒い部分には金属光沢がある



【8】日本のカメムシで最も美しいといわれるアカスジキンカメムシの成虫



【9】イモムシの汁を吸っているシロヘリクチブトカメムシ



地球と日本の自然 (2)

「雑木林と里山」 — 生物多様性 —

加藤 健二

今回は、志木周辺に身近な武蔵野台地から話を進めたいと思います。

武蔵野台地は、東京・埼玉を中心に見ますと、北東は荒川、南は多摩川に挟まれています。大東京のベッドタウンとしてかろうじて雑木林などの自然が残されている貴重な「場」になっています。

さて、「雑木林」ですが、皆様はこれをどのように読むでしょうか？

「ぞうきばやし」が当然なのですが、実はこれを木材（建材としての）価値のない林の意味で「ざつぽくりん」と呼んだ（読んだ）時代がありました。

戦後の復興を目的として、1955 - 65 年に広葉樹林の木々を伐採し、木材価値の高いスギ・ヒノキを植林する目的で打ち出した時の言葉で、多くの山林がスギ・ヒノキに変わっていきました。

それから約 50 年が経過し、「雑木林」を「ざつぽくりん」と呼ぶことはありませんが、国を挙げて育成されてきたはずのスギ・ヒノキ林は木材価格の低下、林業従事者の高齢化などにより放置された山林が多くなり、治山・治水の面からも山林の重要度が低下しています。

武蔵野台地には、幸いにも落葉広葉樹の雑木林が保全されていますが、残念ながら都市化により急速にその面積を減らしています。

かつて人々は田や畑を耕し、雑木林からマキや草を集め、炭焼をし、落ち葉を田畑の堆肥肥料として活用していました。人間の生活行為によって林内に陽の光がさしこみ、小動物や昆虫、これ



江戸へ多摩川の水を供給するために開削された玉川上水
玉川上水（1653）からさらに分水された野火止用水（1655）は、武蔵野台地を潤し、志木まで流れていました

を捕食する鳥類、植物や土中生物そして微生物など多様な生物種が飛躍的な増加を実現したわけです。そして人の手が入ることによってあるがままでは無い持続的な人間—自然のリサイクル環境が生まれてきたのです。

このように人の手はいった雑木林を「里山」と呼び、「里山」は、自然・人間の共存体が「生物多様性」を実現できる有力な場として昨年、名古屋での COP10 でも世界的に評価されました。

近年、生物乱獲、地球温暖化、廃棄物汚染などが地球環境の劣化をもたらしていますが、「生物多様性」は、人間を含めた地球環境の健全度を占う主要な指標ともなります。

最近では日本各地で里山の復帰と保全活動が進められるようになってきました。エコシティ志木でも、「いろは親水公園斜面林」と「西原ふれあい第三公園」で、手入れと自然観察を毎月定期的に行っています。是非ご参加ください。

編集後記

◇当会の公式ホームページがリニューアルされています。行事案内も見やすくなりましたのでご活用ください（p10 参照）。

◇『水塚の文化誌』は引き続き書店などで好評発売中です。小学校での水塚についての授業を充実させたいという相談が寄せられたり、調査・出版の効果がじわじわと現れています。（ふくろう）

エコシティ志木通信

第 63 号 2011 年 9 月 1 日

〈発行〉

NPO 法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

イベントカレンダー
2011年
9月→11月



8月7日「水辺のおたすけ隊」のようす
県立志木高校PTAの方々をはじめ40名が集まり、新河岸川岸辺の外来種を駆除しました

会員募集中



親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう



◆いろは親水公園こもれびのこみち斜面林の手入れ&自然観察

＜主に 奇数月＝第二土曜日、偶数月＝第四日曜日＞

【日程】9月10日（土）／10月23日（日）／11月12日（土）／12月25日（日）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋

（志木市本町2丁目／ルストホフ志木の隣）

【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。

◆西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の手入れ&自然観察

＜主に 奇数月＝第四日曜日、偶数月＝第二土曜日＞

【日程】9月25日（日）／10月8日（土）／11月27日（日）／12月10日（

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分に西原ふれあい第3公園の中央にあるベンチ付近

【内容】西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の清掃・下草刈り・急斜面保全等の作業を行います。



◇上記の共通項目

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【費用】どなたでも無料

【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【協力】志木市道路公園課



◆柳瀬川・外来植物駆除作戦

【日程】9月18日（日）

【時間】16時～18時（雨天時は中止）

【集合】16時に柳瀬川右岸・東武東上線の鉄橋下

【内容】特定外来生物のアレチウリや要注意外来生物のオオブタクサを抜き取ります。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【費用】どなたでも無料

【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

■調べてみよう

◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング ＜主に 毎月第三日曜日＞

【日程】9月18日（日）／10月16日（日）／11月20日（日）／12月18日（日）

【時間】いずれも9時～12時（雨天時は中止）

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手

【内容】※種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。

（1）野鳥：柳瀬川に沿って約4km弱を散策しながら調査します。

＜持物＞双眼鏡、あれば野鳥図鑑 等

（2）川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。

＜持物＞川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑 等

【費用】会員無料（一般200円／中学生以下は無料）※家族は全員で1名扱い

【主催】NPO 法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部



◆志木小学校「屋上ビオトープ植生調査」

【日時】10月7日（金） 13時30分～15時 （少雨決行）
 【集合】志木小学校2F 正門前（志木市本町1-10-1）
 【主催】（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
 【協力】NPO 法人エコシティ志木

■自然と文化を楽しもう

◆こどもとおとなの自然塾（3）

「秋の夜に虫の声を聞こう」

【日時】9月25日（日） 17時～19時 （雨天中止）
 【集合】17時に東武東上線・柳瀬川駅前サミット前の「円形広場」
 【持物】長袖・長ズボン、虫取りアミ、虫かご、あれば昆虫図鑑 等



◆こどもとおとなの自然塾（4）

「ドングリと落ち葉で遊ぼう」

【日時】11月6日（日） 9時～12時 （雨天中止）
 【集合】9時に館第3児童公園（志木第二小学校となり）
 【持物】飲み物、長袖・長ズボン



◇上記の共通項目

【申込】不要
 【費用】200円（会員・中学生以下は無料） ※ 家族は全員で1名扱い
 【主催】NPO 法人エコシティ志木 & （財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
 【後援】志木市立教育サポートセンター

◆新河岸川ぶらり散歩 ～志木から朝霞水門までの秋を歩く～

【日時】10月30日（日） 9時～15時30分 （雨天時は中止）
 【集合】9時に村山快哉堂の前（志木市役所向い／新河岸川と柳瀬川の合流点）
 【主なコース】
 村山快哉堂→新河岸川旧堤防→新河岸川旧河道→黒目川合流点→朝霞水門→
 朝霞調節池→新盛橋（解散）→バスで東武東上線朝霞台／JR 武蔵野線北朝霞へ
 【案内】天田真（NPO 法人エコシティ志木代表理事／志木まると博物館“河童のつづら”館長）
 【持物】お弁当、飲み物、歩きやすい服装 等
 【費用】一般300円（会員100円、中学生以下は無料）
 【主催】NPO 法人エコシティ志木 & （財）埼玉県生態系保護協会 志木支部



■関連行事

◆辻銀杏で街あわせ ～ぺあもーる&たてのよこいとコラボイベント～

【日時】9月11日（日） 【会場】志木ニュータウンぺあもーる商店街
 【主催】たてのよこいと実行委員会

◆いろは遊学館ふれあい祭り

【日時】10月15日（土）～10月16日（日） 【会場】いろは遊学館
 【主催】いろはふれあい祭り運営委員会

◆志木市民まつり

【日時】12月4日（日） 【会場】志木市民会館駐車場ほか
 【主催】志木市民まつり実行委員会



◇上記に志木まると博物館河童のつづらパネルや柳瀬川・出前水族館を出展します。

会員募集中！！ （詳細は裏面をご覧ください。）

◆5月◆

25日(水) 新河岸川水辺再生工事立会
27日(金) コミュニティ協議会総会
29日(日) エコシティ志木通信印刷発送作業
30日(月) 志木小ヤゴ救出作戦
30日(月) 志木小エコクラブ

◆6月◆

1日(水) 志木小ヤゴ救出作戦
13日(月) 柳瀬川草刈現地打ち合わせ
13(月) 志木小エコクラブ
19日(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
19日(日) 外来植物駆除作戦
20日(月) 志木小エコクラブ
21日(火) コミュニティ協議会委員会
24日(金) 6月運営会議
26日(日) こもれびのこみち月例作業
27日(月) 志木小エコクラブ
28日(火) 宗岡三小柳瀬川総合学習

◆7月◆

2日(土) 大東大・高島第六小柳瀬川魚捕り
3日(日) 放課後子ども教室リンクス魚捕り
3日(日) 水塚の文化研究会定例会
9日(土) こもれびのこみち月例作業
11日(月) 志木小エコクラブ
12日(火) 7月運営会議
15日(金) 志木中学校外来植物駆除作戦
17日(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
17日(日) 外来植物駆除作戦
21日(木) 広報部会
23日(土) 西原ふれあい第三公園月例作業
24日(日) 自然塾 お魚と遊ぼう
28日(木) 西原第三公園で市公園課立会
30日(土) 竹の子エコクラブ 柳瀬川へ入ろう

◆8月◆

5日(金) 水辺のお助け隊下見
7日(日) 新河岸川 水辺のお助け隊
7日(日) 水塚の文化研究会定例会
13日(土) 西原ふれあい第三公園月例作業



エコシティ志木に入会すると

☆仲間といっしょに環境まちづくりを实践できます

☆次のものを受け取れます

- ①「市民がつくる志木市の環境プラン」(120頁) 1冊
- ②「エコシティ志木通信」 年4回
- ③ 行事案内のはがき、または e-mail 毎月

部会や行事には自由に参加できます

水と緑部会

まちづくり部会

広報部会

■正会員 年会費＝個人会員 2,400円※
団体会員 5,000円

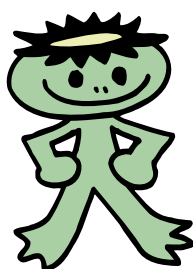
■賛助会員 (個人・団体)
会費＝年額 1口 5,000円

★入会方法

氏名、住所、電話番号を明記し、郵便振替等で年会費を納入してください。

〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

※ 同一家族の2人め以降は1,200円、同一家族の高校生以下無料。
年会費の有効期間は、4月～翌年3月末です。
10月以降に新入会の年会費は上記の半額です。



NPO法人 エコシティ志木

埼玉県NPO基金「団体希望制度」 寄付募集中

★寄付方法

1. エコシティ志木を指定して寄付できます
2. 環境など、活動分野を指定して寄付できます
3. NPOを広く支援するための寄付ができます

★寄付金の税法上の優遇措置

1. 個人 所得税・個人住民税が一定額控除されます
2. 法人 寄付金全額を損金に算入できます

詳しくは → **048-830-2839** (埼玉県NPO活動推進課)
<http://www.saitamaken-npo.net/>